



毎日新聞西部社会事業団だより

第91号 2015年3月

発行所 〒802-8651 北九州市小倉北区紺屋町13-1 (公財)毎日新聞西部社会事業団
発行人 木村 雄峰
電話 093-551-6675 ファクス 093-541-8009
E-mail: s-maiswf@cotton.ocn.ne.jp
郵便振替 01770-2-40213
URL http://www.mainichi.co.jp/seibu\_shakaijigyo/

毎日新聞筑豊支局に募金を持参した聖母幼稚園の園児たち 12月22日



「愛の義援金」は毎年、12月の約1カ月間を募集期間と定め、過去に何らかの募金を頂いた方や歳末チャリティー展でご購入頂いた方々などに募金をお願いするチャリティー振込用紙などを郵送しており、14年度は約6800人の方々に協力をお願いした。その結果、早いペースで

歳末助け合い募金昨年比で減少

毎日希望奨学金のみ増加

毎日新聞社と当西部社会事業団が広くお願いした2014年の歳末助け合い募金「愛の義援金」の集計結果がまとまった。海外救援金、小児がん征圧募金、東日本大震災救済金、毎日希望奨学金、8月豪雨災害救援金を合わせた募金総額は、791件、6,986,009円にのぼったが、前年度に比べると60万円近い減少となった。指定寄付を除いた一般募金は児童養護施設や母子施設、障害児施設などの子どもたちへの新入学や卒業の祝い品プレゼントや福祉諸団体への助成金として活用し、他の指定募金は関係機関や団体へ配分もしくは送金した。

14年度歳末助け合い募金集計

Table with 6 columns: Item, 14年度 (件数, 金額), 13年度 (件数, 金額), 前年度比 (件数, 金額). Rows include 一般募金, 海外救援金, 小児がん, 小計, 東日本大震災救援金, 希望奨学金, フィリピン台風災害救援金, 8月豪雨災害救援金, 合計.

福岡本部で小児がん征圧募金贈呈式 13団体に300万円を配分

小児がん征圧募金の贈呈式が3月5日、福岡市の毎日新聞福岡本部で開催された。第19次配分となる今年度は、募金300万円を13団体に贈呈した。昨年度、東京在住の方が遺産の一部2000万円を「小児がん征圧募金」と当事業団に寄せたため、西部管内だけでなく東京・大阪両事業団が配分している団体にもこの募金を贈った。それでも繰越金が生じたため、例年より多額の募金を配分できた。贈呈式には10団体の代表らが出席。野沢俊司・編集局長が各団体の代表に募金を手渡した。欠席した3団体については、指定された金融機関口座に配分金を振り込んだ。

児童・生徒への学用品プレゼント事業 厳しい現状を踏まえ長崎県を除き実施

今年度の歳末募金は、寄せられた募金の総額が前年度の総額に比べ、やや減少した。希望奨学金だけは前年度に比べて約43万円増加したが、それ以外の社会福祉基金と指定寄付金は、いずれも前年度より減少した。このため、歳末募金を原資にした児童養護施設や母子施設の子どもたちへの新入学・卒業祝い品プレゼント事業を見直すこととし、これまで事業実施対象にしていた福岡、山口、長崎3県のうち長崎県を対象から除くことにした。残る2県の71カ所の施設を対象に、今春小学校に入学予定の子どもや中学・高校を卒業予定の生徒たちを対象に事前に調査用紙を配布して対象者数などを調べてもらった。その結果、対象者は64施設に548人在籍していることが分かり、新入学児童にはランドセルやリュックサック(水筒付き)、手提げ(筆箱付き)、雨具セット、図書カードのいずれか希望の品を、中学・高校を卒業予定の子どもたちには目覚し時計か図書カードを贈った。このほか、歳末募金の第二次配分として山口県の共同募金会や福岡県の交通遺児を支える会、九州盲導犬協会、福岡・北九州のいのちの電話、北九州あゆみの会、障害福祉ボランティア協会など福祉団体に活動助成金を贈った。しかし、昨年度に続き助成額の減額をお願いするなど、今年度も厳しい状況が続いた。

即売展には、全国の洋画家、日本画家、書家、名刺の高僧、陶芸家、工芸家、芸能人ら約800人から1400点を超す作品が寄せられた。これらの作品を3会場に振り分け、前年度の即売展で残っていた作品と合わせて展示・即売。いずれの会場でも、特に著名な作家から寄せられた作品約1000点は入札方式とし、2日目に集計して落札者を決めた。会期と会場は12月6、7日が北九州展(北九州市小倉北区の毎日会館)▽13、14日が山口展(山口市の山口井筒屋)▽20、21日が福岡展(福岡市中央区のアクロス福岡)。今年度は3会場ともに比較的天候に恵まれたが、全体的に来場者数は低調だった。今年度も事前PRに重点を置き、チラシの作成・配布、毎日新聞紙上での特集記事掲載、各会場直前の地方版社告、テレビ局によるニュース放映、事業ホームページでの作品紹介などを実施し、来場者増加を図った。

多くの美術ファンでにぎわった歳末チャリティー展(14年12月、山口井筒屋特設会場で)



即売展の売上から諸経費を差し引いた益金は、多様な福祉事業に活用。児童福祉や障害者福祉、高齢者福祉、ホームレス自立支援、交通遺児支援などの活動に取り組みする団体の助成金などとして活用する。

この日は朝から好天に恵まれて、多くのファンが詰めかけ、多くが入った作品を購入。売上高はこの日だけで400万円を超え、盛況となった。



売上高400万円超となった年度末展(15年3月7日、毎日西部会館で)

歳末チャリティー即売展にぎわも 売り上げは減らず 右肩下がりが続く

全国の一流作家の先生方のご理解とご協力により、毎年実施している当社会事業団恒例の歳末チャリティー「全国寄贈書画・陶芸品即売展」は昨年12月、北九州、山口、福岡の3会場で順次開催し、多数の美術ファンが詰め掛けた。しかし売り上げはバツとせず、1200万円台にとどまった。08年度以降、右肩下がりの傾向が続いている。

た。しかし売上高は、前年度比で約100万円下回る1200万円台という厳しい結果となった。歳末展で売れ残った作品は3月7日、北九州市の毎日会館で開いた年度末展で、価格を更に値引きして展示・即売した。

◆出発を励ます集いに300人 ◆風船バレーに45チーム

北九州市と北九州市手をつなぐ育成会(北原守会長)が、障害のある人たちの人生の節目を祝う第34回「出発(たびだち)を励ます集い」(毎日新聞西部社会事業団後援)が15年1月25日、戸畑区の「ウェルとばた」であった=写真=。特別支援学級で入学、卒業を迎える児童・生徒や成人式、還暦を迎える人たちを対象に、毎年実施。今回、対象者の55人を含め家族や関係者など約300人が参加した。式典で北原会長が「障害の有無を超え、共生社会の実現を」とあいさつ。記念品の置き時計を全員に贈った。代表して成人した小川歩美さんが「これから頑張ります」と力強く決意を語った。その後、コンサートもあり門出を祝った。



障害者と健常者が一緒にゴム風船でバレーボールを楽しむ「第25回全国ふうせんバレーボール大会」が14年11月30日、八幡東区の市立総合体育館で開かれた。大阪や長崎など5府県から45チーム計500人が出場し、白熱した試合を繰り広げた。北九州発祥のふうせんバレーは、障害者と健常者の6人でチームを構成し、全員が一度ボールに触ってから相手コートへ打ち返すのがルール。ボールは直径40mmのゴム風船で、視覚障害者もプレーできるように中に鈴が2個入っている。全国大会は1990年から毎年開催されている。月に3回の練習を重ねた地元勢の村谷光太さん(27) =小倉南区=は「緊張するけど楽しんでやりたい」と笑顔でコートに立った。村谷さんのチームは決勝まで勝ち進んだが、大阪市のチームに敗れ、準決勝だった。